

# 重要な内容ですので、ご家族の皆さんでご覧になってください。

第3号 平成29年11月29日

発行：鳥屋野小学校地域検討会

## みんなで考えよう！鳥屋野小学校の未来 地域検討会だより

鳥屋野小学校区では、急速な宅地開発により、児童数の増加傾向が続いています。下記の「鳥屋野小学校児童・学級数推計値」によると、少なくとも平成35年度まで続くことがわかり、教室不足等の対応等が必要となります。そのため、平成27年度に鳥屋野校区コミュニティ協議会と鳥屋野小学校PTAが中心となった鳥屋野小学校地域検討会が立ち上がり、対応策を検討することになりました。このたよりは、鳥屋野小学校地域検討会で話し合われた事から資料の内容などについて、地域や保護者の皆さんにお知らせするものです。

H29.5.1 現在の鳥屋野小学校児童・学級数の推計値です。H28年度の0歳児が入学する35年度までの推計値となります。

平成29年度		30		31		32		33		34		35	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
898	30	975	33	1029	35	1053	35	1127	36	1200	38	1237	40

### 大規模化対応策想定案

現在、想定をしている案は、次の通りです。

- A案 … 現在の鳥屋野小学校校舎を増築し、必要な教室数等を確保する。
- B案 … 旧鳥屋野小学校地に、新たな分校舎を建設し、1～2学年の学習棟として使用する。3～6学年は現校舎を使用する。
- C案 … 鳥屋野小学校を分離し、旧鳥屋野小学校跡地に、新設の小学校を設置する。



### 【地域検討会メンバー】

(敬称略)

○鳥屋野校区コミュニティ協議会より  
阿部 洋一(会長)、中野 和行(事務局長)、西澤 甫、青木 孝也、川崎 弘、砂塚 修、大石 富夫、有坂 康治、和田 三雄、佐藤 龍男、本間 功美雄、泉田 雅幸、小池 直美、豊崎 輝行、三浦 智香江

○鳥屋野小学校PTAより  
遠山 孝司(副会長)、石塚 律子、石原 康好、岩嶋 香世、大須賀 響子、小田 知美、山田 陽子

### 質疑

- ・上山小学校を含めてシミュレーションしてはどうか？  
→ 前回の検討会でもご意見がありましたが、今後対応策を検討していく中で必要性が出てくれば、様々なシミュレーションもしていきます。
- ・教育委員会の「適正配置」としての考え方はよいのか？  
→ 小学校の適正規模は学年2～4学級と考えています。しかしながら、教育委員会では、保護者や地域の意向を踏まえて検討を行うことにしています。
- ・なぜ、平成36年度からの対応策を考えるのか？ 来年度から教室が不足すると聞いているが？  
→ 校舎建設の財源となる国庫補助金申請が、旧校舎解体後、5年経過することが必要だからです。

それまでの間は、特別教室等の普通教室への転用で、対応していきたいと考えています。

- ・ A案の増築をしても「大規模化」は解消されないのではないだろうか？  
→ 「大規模化」の解消というのは、教室不足解消もその一つと考えてもらうとよいと思います。
- ・ もし子ども数が減ってきたら、それでも増築するのか？  
→ 校舎設計を行う時の児童・学級数の推計等を用いて、どの程度増築するかを決めます。増築後に減った場合の施設設備は学校が教育活動を行う際に更に有効に活用してほしいと考えています。
- ・ Bの大規模校解消の分校案は、新潟市でやっているところはあるのか？  
→ 新潟市ではありません。全国の学校を把握しているわけではありませんが、横浜市において1800人規模になると推計される小学校において、今後実施される計画はあります。

### 各案に対する主なご意見

#### ≪ A案・現校舎の増築による対応 ≫

- 最も現実的な案だと考えられる。B案とC案は無理がある。
- A案が良いと思うが、土地の買収による増築を考えなければならぬと思う。また避難所等を考えた時に、正面広場は確保しておきたい。
- 5年後に校舎増築することとし、それまでの間はプレハブ教室で対応すると良いのでは。

#### ≪ B案・跡地に分校舎建設による対応 ≫

- 1年生から6年生まで同じ校舎で学ぶことは大切である。(縦割り活動ができないから)

#### ≪ C案・跡地に新設校建設による対応 ≫

- 大規模校で本当に良いのか、適正配置の考え方を守るべきではないか。
- 自治会単位に、校区を分断することはできない。とても困難である。
- コミ協としても、小学校が分かれて対応することになり、大変である。

#### ≪ その他、検討会の際に新たに出された案 ≫

- 子どもたちがきちんと教育を受けられて、地区・校区が良くなるのはどのような選択なのか、考えてほしい。
- 小中一貫校である義務教育学校をつくってはどうか。



#### 【 今後5年間の対応について 】

この紙面でお伝えしているのは、国庫補助申請による大規模化対応策が可能となる5年後の対応についてです。

平成30年度には3教室が足りなくなりますが、特別教室等の普通学級転用により対応していきたいと考えています。またその後も同様な方法をもって対応していきますが、教育活動に支障がないように、鳥屋野小学校職員と十分に検討をしていきます。

### 今後のスケジュール

今後、鳥屋野小学校地域検討会としての「大規模化対応についての提言素案」を取りまとめ、地域の皆様と保護者の方々から意見を伺いたいと考えています。そしてその意見を参考に検討を重ねた上で「提言書」を作成し、鳥屋野校区コミュニティ協議会による「要望書」作成につなげていきます。

このたよりに関する問い合わせは、新潟市教育委員会教育総務課教育政策室へお願いします。

(TEL 025-226-3177 FAX 025-230-0401 E-Mail somu.ed@city.niigata.lg.jp)

なお、当日の配布資料やこの検討だよりは、後日、新潟市のホームページに掲載いたします。